

【海と灯台プロジェクト】

新たな灯台利活用モデル事業

調査検証・利活用事業企画のためのレクチャー

調査検証コースの実施にあたって(募集要項より抜粋)

○**仮説の設定** ...2025年度からは、「灯台 ×○○の事業で、灯台を訪れる人を増やす」という仮説の「○○」に入るテーマの設定が必要です。
灯台利活用事業を構想した背景や事前調査の内容、実施団体の優位性などを整理し、その灯台独自のテーマの設定をしてください。

○**調査(必須)** ...灯台利活用の事業化の実現可能性について、計画的に調査 などを行うこととする。
▼内容には原則、以下を含める。

① 対象灯台の基礎的調査

- ・基礎データ(高さ、光達距離、初点灯年など)
 - ・設置された経緯(設置場所の歴史や地勢に基づく経緯)
 - ・関係者インタビュー
- ※上記をふまえて、対象灯台に関し、一般の方がその価値や役割を理解できる紹介文(ストーリー)を作成する。

② 対象灯台のオリジナル調査

外的要因、内的要因の両面から、調査内容を設定し、仮説を検証する。

A. 外的要因の例

- ・灯台が立地する周辺環境(気候や地形による影響、安全性など)
- ・灯台と周辺施設の整備状況(インフラやアクセスの状況)
- ・地域における他団体等の活動の有無と連携の可能性
- ・都道府県や市町村の動向とサポートの可能性(資金調達も含む)

B. 内的要因の例

- ・事業規模や実施体制の検討(人的リソースや収支の検討を含む)
- ・事業化に向けて今後解決すべき課題
- ・事業化に向けたスケジュールの計画

○ 実証実験(任意)

実証実験とは、「灯台利活用事業の仮説」の検証や、その継続を念頭に置いた実施内容、初期投資、運営体制構築等に限る。
そのため、原則、造成するイベントや体験プログラムは参加費を徴収し、開発商品については試験販売を行うとともに、アンケート等で参考意見を収集する。

参考: 2024年度報告書
(クリックすると展開します)

[能取岬灯台\(北海道\)](#)
調査検証報告書

[大間崎灯台\(青森県\)](#)
調査検証報告書

①調査・情報収集の手法

1. 灯台のある空間に身を置き、実体験(必須)

実際にその場に身を置かないと分からないことが多々あります！
天気が良い日だけではなく、風が強い日や、霧や雨天時、
朝・昼・晩の異なる時間帯、春夏秋冬の異なる季節を体験し、企画に生かしましょう。
灯台の明かりはセンサーによって点灯・消灯します。その瞬間を見守る体験もぜひ。
※のぼれない灯台は、管轄の海上保安部に相談を。



濃霧で何も見えなくなることも..

2. ヒアリング・アンケート

幅広い方々に話を聞くことをおすすめします。

- ①海上保安部の方々(管理職、現在保守を担当している職員、過去に灯台守として宿泊勤務をされていた方、など)
- ②灯台立地の自治体首長、議員、職員(灯台利活用に関する自治体の考え、連携・事業費支出の可能性など)
- ③地元の方々(漁師、灯台周辺の住民、港湾関係者、郷土史家、灯台最寄りの人口密集地の住民)
- ④灯台を訪れる人々(訪問目的、楽しみ方など)

3. 地元新聞、図書館の郷土史コーナー本

4. 写真コンテスト →参考: [恵山岬灯台 Instagramフォトコンテスト](#)

集まった写真を通じて、灯台に関する視点やビジュアルの検討ができます＝調査に。
また、応募要項に「主催者が、イベントPRやウェブサイトで使用できる」要件をあらかじめ盛り込むことで、
ポスター・パンフレットなどのPRツール素材として活用できます。
工夫...過去に撮った写真も応募できることとする＝様々な季節の写真が集まる。
ドローン撮影写真の応募も可とすると、よりダイナミックな写真が集まる(撮影可能な立地の場合)



①調査・情報収集の手法

5. 燈光会の会誌「燈光」過去記事検索

「燈光会」は、灯台など航路標識に関する知識の普及に取り組む団体で、その発足は大正時代。もともとは、海上保安庁灯台部の職員やOBによる組織でしたが、現在は広く会員を募集しています。

海上保安庁から全国16基の「のぼれる灯台」の管理を請け負ったり、灯台に絡む様々な文献や書物を管理されています。

燈光会の会員(年会費...個人5000円、団体1万円)になると、会誌「燈光」の過去の貴重な資料を全て、インターネットで閲覧できます。

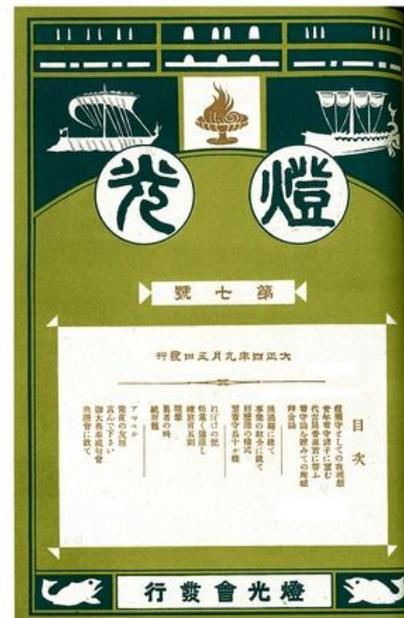
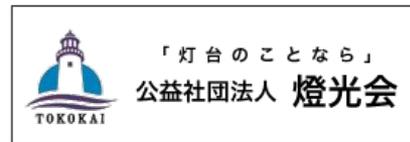
「燈光」の記事例:2024年1月号

https://www.tokokai.org/tkkwp/wp-content/uploads/2024/01/toko_2024_01_koukai.pdf

参照元 <https://www.tokokai.org/info/8053/>

また、[燈光会ウェブサイト内「航路標識の話」](#)は、灯台に関する知識を分かりやすくまとめてあります。ぜひ参考にご覧ください。

注:掲載テキストや写真の使用は、燈光会の許諾を得てください。



会誌「燈光」大正時代からのアーカイブがインターネットで閲覧できます

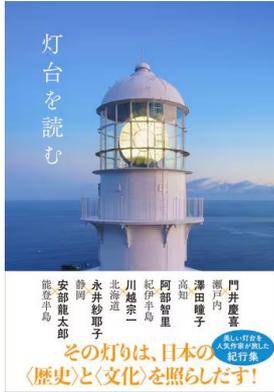
①調査・情報収集の手法

6. 専門家による視察 灯台や周辺地、事業等に関し、専門的見地からの助言を得ましょう

▼一例として、下記の方々は、事務局から紹介することが可能です(謝礼目安 5万円~/回、旅費別途)

名前	専門性	所属等	居住地
不動 まゆう	灯台マニア。国内外の灯台に関する情報発信、活用サポート	フリーペーパー「灯台どうだい?」編集長	東京都
池ノ上 真一	観光まちづくり、文化遺産マネジメント	北海商科大学 教授・「海と灯台学」研究主幹	北海道札幌市
石村 智	地域ストーリー掘り起こし、文化財活用	東京文化財研究所無形文化遺産部部長	東京都
海津 ゆりえ	エコツーリズム、地域づくりと観光	文教大学国際学部 教授	神奈川県
栗原 憲一	ジオパーク活用、地域ストーリーの解説	(株)ジオ・ラボ 代表取締役	北海道三笠市
高野 宏康	北前船学	小樽商科大学 客員研究員	北海道小樽市
井上 昭子	中小企業支援/連携支援・まちづくり	Everyday Adventure!代表 岐阜大学社会システム経営学環地域ラボ支援員	岐阜県
小坂 典子	持続可能な観光地域づくり、自然環境をフィールドとした観光地域づくり	公益財団法人日本交通公社 副主任研究員	神奈川県
伊藤 慶子	海洋資源を活用した商品開発	株式会社WMI 代表取締役	北海道千歳市
榎本 碧	景観まちづくり、土木遺産	国立研究開発法人土木研究所	北海道札幌市
大内 さおり	食と観光を中心とした地域産業支援	(一社)日本海洋文化総合研究所 事務局長	北海道札幌市

②オススメ「灯台本」



「灯台を読む」
安部龍太郎、門井慶喜、阿部智里、
澤田瞳子、川越宗一、永井紗耶子
(文藝春秋)



「灯台から考える海の近代」
谷川竜一
(京都大学学術出版会)



「海と灯台学」
日本財団 海と灯台プロジェクト
(文藝春秋)



「日本灯台物語」
岡 克己
(講談社)

③灯台利活用の 企画にあたって、事前に確認・情報収集 すべきこと

1. 交通アクセス

- ①公共交通機関でのアクセス
- ②自家用車でのアクセス(駐車場のキャパシティ、駐車場から灯台への導線)
- ③貸切バスでのアクセス(バスを駐車できる駐車場があるか)
- ④その他アクセス方法(自転車、バイク、近隣宿泊施設から徒歩、など)

2. インフラ

水道、電気、ガス、トイレ、街灯など

3. 土地・建物の権利関係

4. 規制関係(使用申請手続き・必要書類)

- ・国有地(占有は基本NG)
- ・市有地
- ・自然公園法(建物の設置や、使用する色の規制など)、文化財保護法
- ・保健所(飲食、サウナなど)

5. 連携可能性先

- ・連携内容...事業運営、サポート、コラボレーション、PR、協賛
 - ・連携先...自治体(担当課)、担当海上保安部、企業、観光協会、ガイド、学校、観光施設、飲食店、物販店、個人など
- ※灯台周辺だけでなく、中心部からの導線沿いにも可能性あり

④事業検証の留意点

調査検証の一環として、イベントやツアーなどの利活用事業の検証を行う場合、以下にご留意ください

①仮説に対する検証結果が分かるような内容としてください。

(例: 仮説が「灯台×コラボスイーツで灯台を訪れる人を増やす」であれば、
コラボスイーツの試作をするだけでなく、
試験販売を行って、売れるかどうかや、集客効果があるかどうかを検証してください。
→助成金がなくなってからも継続して販売ができるかどうかについて検討してください。)

②仮説が成立しないという結果や、集客難・赤字などの課題が判明した場合も「成果」です。

そういった事実が分かったからこそその「次」があるからです。
また、明らかになった課題を報告書等で発表・共有いただくことが、灯台利活用モデル事業の趣旨に合致します。

③無償配布や、無償のモニターツアー参加は極力、避けてください。

「次年度以降の経費は自治体が負担する」など、無償で実施できる見込みが立っている場合をのぞき、
有償での販売、有償でのモニターツアー実施を行い、継続のための経費が賄えるかどうかを検証してください。

④ガイドツアーや体験プログラムの場合は、事前の試験実施をするなど十分な準備の上で実施してください。

「1回やってみる」だけでは、実施することに精一杯となり、検証データが十分に得られない可能性があります。

⑤事業検証の実施状況や成果を、関係者間で共有し、ふりかえりや、今後について考える場をもってください。

参考：恵山岬灯台ガイドウォーク

企画における留意点

灯台について全く知らない人にも分かりやすく
クイズをおりませ、歩きながら、バラエティに富んだ景色を楽しみつつ
「ブラタモリ」のような知的な好奇心が満たされる体験を提供

企画・準備の流れ

恵山岬灯台に関する調査・情報収集(本、新聞、ヒアリング、資料館など)
ガイドウォークのコース開発(30分間、約1.5キロ)
説明用フリップ作成(スケッチブック使用)
関係者で試験実施→説明用フリップをブラッシュアップ
一般参加を募って試験実施→ 同上
地元の若者向けにガイド講習→ 同上
説明用フリップを雨天対応のプラスチック製に(看板屋に制作委託)
雨天用の代替を準備(解説動画作成、隣接するホテルに会場準備)

2023年はイベント「[灯台ホリデイ](#)」参加者に提供するサービスとして実施しました
(参加費 当日 1500円、事前予約 1000円)



→説明用フリップ

参考: 過去事例から学ぶ

過去に、灯台および周辺地で行われた利活用手法・アイデア

イベント、ガイドツアー、セミナー、宿泊体験、飲食提供..近年、様々な試みが行われています



灯台×祭り



灯台×グルメ



灯台×保育園



灯台×グランピング



灯台×ウェディング



石狩灯台お兄さん



灯台シンポジウム



灯台内部見学



灯台×クルーズ



灯台×星



灯台×地域検定



灯台×漫画



灯台×サウナ



灯台夜間参観



灯台×夜市



灯台×ラジオ



灯台×チェアリング



灯台×工作



灯台×バイク



灯台×音声ガイド



灯台×バイオリン演奏

紹介きれないほどの事例がここ数年で増えてきました。

[過去の新たな灯台利活用モデル事業](#)、[海と灯台プロジェクトWEB記事](#)、[海と灯台プロジェクトのXの投稿](#)、[Yahooニュースにて「灯台」で検索](#)や、[Xにて「#灯台」で検索](#)など、色々な方法で調べてみてください。

参考：航路標識協力団体

海上保安庁「航路標識協力団体」制度

「航路標識協力団体」制度とは、2021年11月の航路標識法改正によって創設されたもので、指定されると、灯台の一般公開や歴史資料の展示、普及・啓発、簡易な点検などに取り組むことができます。

- ・灯台内部に入る「鍵」を預かることができる
- ・灯台見学会を開催し、参加費を徴収することもできる

[→詳しくはこちら\(海保 HP\)](#)

今後の灯台利活用の幅が広がりますので、ぜひご検討ください。

注：募集期間が限られています

例年、11月1日～12月15日あたりが募集期間となっています。

事前に対象灯台を管理する海上保安部に相談することをオススメします



ご不明点の確認やご相談はお気軽に！

海と灯台プロジェクト事務局
新たな灯台利活用モデル事業

担当：内藤香海・阪口大輔・山口健

toudai@umi-nippon.com

TEL 080-9264-3366

